

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271200145		
法人名	有限会社グリーン・フォレスト		
事業所名	グループホーム東山		
所在地	御殿場市東田中1447-1		
自己評価作成日	令和5年 2月 20日	評価結果市町村受理日	令和5年 3月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 3月 8日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念「自立と尊厳」の基で、入居者様一人ひとりの「○○したい」という気持ちを大切に、その実現に取り組んでいます。ホームの中で会話が弾み、入居者様が自分らしく暮らせるよう、日常生活のなかで出来る事、やりたい事を汲み取り、洗濯物量みやお花の手入れをするなど暮らしの継続を目指しています。畑で野菜を収穫し、調理して季節を味わっています。また、当ホームで最期を迎えたいというご希望に答えられるよう、ターミナルケアにも取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して20年目の事業所であり、外部評価の受審は今回で12回目となる。理念である「自立と尊厳」に忠実に、「できることは自分でやりましょう」をモットーとして、利用者個々の残存能力を活かす支援を行っている。職員一人ひとりが自立しており、日常の支援はもとより、看取り支援も安心して任せることができている。管理者含め、職員全員が「お互い様」の気持ちで助け合い、協力体制が築かれている。新型コロナウイルス感染症に対する「リスク管理」を徹底させる方針により、面会や外出等はやむを得ず制限しているが、家族は理解を示し応じてくれている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の一員として、住み慣れた場所で馴染みの人達と共に暮らしている様に援助する目標を掲げ、ケアカンファレンスで話し合い確認し、取り組めるようにしている。	利用者個々の残存能力を活かし、「できることは自分でやります」とモットーに支援している。職員は、「自立」を意識してできる限り見守るが、無理強いとにならないように留意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは、気軽に挨拶をし合える関係である。特に隣の住人とは、お子さんがホームに遊びに来たり、ホームでの行事に招待したり、交流を深めている。	隣家とは、以前より良好な関係性を継続している。菜園ボランティアの近隣住民が、収穫した旬の野菜等を提供してくれている。外気浴の際に交わす挨拶に対して、反応を示して相槌を打つ利用者がいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市主催の「さくら祭り」に参加したり、地域の文化祭に参加する等、地域の方々との交流を大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、現在の状況を報告するなかで意見を聞き、サービスの向上に役立てている。	議事録には、事業所の現状報告や行事内容などの記載があり、家族には来所時に閲覧を勧めている。新型コロナウイルス感染症に対するリスク管理について、具体的な取り組みを議事録で毎回報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の会議や研修に積極的に参加している。また、入居申し込み等についても相談に応じている。感染症対策についても連絡を取っている。	運営推進会議の議事録は、社長が市担当課に出向いて提出している。以前は、事業所に隣接する寄り合い処「さんぼみち」を地域の集まりなどで活用していた。市内同業施設の職員との交流機会も減っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。しかし、玄関の施錠については、基本的には鍵を掛けないという考えはあるが、入居者様の状況により鍵を掛けざるを得ない状況にある。また、玄関にセンサーを取り付け、音が鳴るようにしている。	以前は、無断外出の危険回避として日中も玄関の施錠をしていたが、現在は見守りで対応できるため、施錠は行っていない。利用者が不穏になる事が想定される場合のみ施錠している。身体拘束に関する事例をカンファレンスで取り上げ、改善策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し学び、虐待の防止を徹底している。また、スタッフの精神状況についても気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、DVDを見るなど学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っている。また、入居者様やご家族の不安や疑問に対し対応するスタッフを配置している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。また、常に入居者様の声や、面会時の家族の声に耳を傾け、日常の会話の中で意見や不満がないか気をつけている。	家族には、面会で来所する際や電話、またSNSを利用して、利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告している。その際に、家族の困っている事や不安また、要望等を聞き取り、できる限りその場で解決するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見や提案が言える環境であり、代表者が職員個々の面接を行い、意見を聞いている。	支援に関する職員の意見や要望は、カンファレンスで話し合い、迅速に対応している。個人的な相談は、管理者が随時話を聞いている。管理者含め、職員全員が「お互い様」の気持ちで助け合い、協力体制が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員への昇進、資格取得を支援する等、取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加する機会を設けている。また、資格取得に向け職員間で情報交換をし、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員の方も参加する研修に参加し情報交換や交流をしている。コロナの感染状況に気を付けながら地域の方々や他施設の職員の方々が集まれる居場所の再開に向けた準備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で、受容と共感の姿勢で入居者様の気持ちを受け止める努力をしている。また、入居者ご本人からの訴えが困難な場合は、家族から要望を確認し、希望を反映できるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や入居後の面会等の機会に家族とのコミュニケーションをよくとり、会話を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でご本人やご家族の話を親身に伺い、相談内容により、他のサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話を大切にし、出来る事と出来ない事を見極め、関わりを積極的に持ち、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろからご家族とのコミュニケーションを大切にし、面会時など、積極的に声を掛け情報提供を行い、互いに相談しながら一緒にご本人を支えていけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時や入居後の日常の会話の中で、馴染みの人や場所を聞き出し、家族の協力を得ながら可能な限り、「会いたい人」「行きたい場所」の実現に取り組んでいる。	現在、家族との面会は窓越しで行っている。馴染みの理髪店に通っていた人も、現在は管理者が事業所内で施術している。どちらも新型コロナウイルス感染症に対するリスク管理であり、やむを得ない対応として家族の了解を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性を把握し、周りの方との関係を理解した上でお互いに良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方のご家族が、畑作りを手伝って下さったり、職員に会いに来られることもある。退去されても関係を断ち切らず、いつでも相談や支援ができるよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人やご家族から意向を確認し、日々のケアに取り組むようにしている。また、入居者との関わりを積極的に持ち、ご本人本位の生活に近づけるよう努力している。	一人ひとりの「何がしたいのか」に焦点を当て、意向や思いの把握に努めている。当日の職員1人が、午前と午後にご利用者と関わる時間を取り、余裕をもって話を聞いている。したいことを言える利用者の思いを「～したい実現報告書」に記録し、職員全員で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にバックグラウンドを記入して頂き、また、ご家族やご本人との会話から生活環境などを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や記録により把握に努めている。また、入居者の方々と関わる時間を多く持ち日々の関わりから現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで現状を把握し、担当医やご家族とも相談しながら介護計画を作成している。	担当職員が短期目標に沿ってモニタリングを行っている。カンファレンスでモニタリングの内容をまとめ、ケアマネジャーが介護計画を作成している。会社独自の「支援シート」を用いて家族の思いを確認し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別日誌や連絡ノートにより、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームで生活が困難になった場合、系列のグループホームへの転居等、柔軟に支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの感染状況に注意しながらボランティアの受け入れを検討している。また、隣の住人と交流を深め、「何かあったらいつでも言ってください」とのお言葉を頂き、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	休日や夜間、いつでも相談や受診が出来る協力医療機関を確保している。また、月2回の歯科往診も受けている。	事業所の協力医は24時間対応が可能で、利用者全員のかかりつけ医である。月2回の定期往診と看護師の健康観察がある。現在、看護師資格を持つ職員は在籍していないが、協力医の看護師と連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格のある職員を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が頻繁にお見舞いに行き、状態を確認し、担当医と話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族にターミナルの件について説明し、同意書を頂いている。重度化された場合については、ご本人の状況についてご家族と話し合い、希望を考慮し最善を尽くしている。	この2年で2人の看取り支援を行っている。職員一人ひとりが自立しており、安心して看取り支援を任せている。看取り期の面会等は、家族の要望にできる限り応じている。本人、家族、また職員のそれぞれが、後悔しないように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講する等、応急手当や初期対応の仕方を学んでいる。医療連携を取っているクリニックの医師の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震等の災害時に対する、日中と夜間対応の防災訓練を定期的に行っている。また、隣人へも協力をお願いしている。	事業所はハザードマップの対象地域ではない。以前、毛布を使って利用者を移動させる訓練を行い、二次被害の危険性が高いことが判明している。最適な避難方法や待避場所については、今後、消防署に確認する予定である。隣家との協力体制は、確約を得ている。	災害が夜間に発生した場合の職員との協力体制を改めて確認すること、また、できる範囲で疑似体験を実施しておくことが望ましい。また、生活用水や蓄電池について、必要な備蓄量の分析と準備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの違いを尊重し、その方に合わせた対応をしている。特に排泄に関しての言葉掛けには配慮している。	問いかけの声掛けで自己決定を促し、行動する前に説明することで本人の不安解消に努めている。特に、排泄時の声掛けは「ささやくように」行っている。利用者がきつく感じるような、声のトーンや強い語尾にならないように留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「〇〇たい実現報告書」を作成し、日常の関わりの中で入居者様本位の生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりを理解し(性格、生活歴等)、会話の中からその方の思いを汲み取り、個別のケアが提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、ホームでヘアカットもしているが、ご本人が希望する場合は、気分転換も兼ねて美容院へ行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様により個人差があるができる事を見極め、一緒に献立を考えたり、準備や片づけを行っている。また、認知症の重度化の為に準備や片づけができなくても、食事は同じテーブルにつき会話を楽しんでいる。	栄養士の作成した献立をベースに、菜園で収穫された旬の野菜を食卓に上げる事もある。高齢化に伴い、便秘傾向が強くなっている。便秘対策にサツマイモや菊芋などを取り入れている。おやつには水ようかんなどを提供している。季節を感じるメニューに拘っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立でバランスもとれており、一人ひとりの疾病や体重の増減を把握している。また、水分摂取表も作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの自立している方には、食後声掛けをして洗面所まで誘導し支援している。義歯は夕食後ホームで預り、義歯洗浄剤を使用し保管している。月2回の歯科往診がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、ご本人に最も合った排泄状況や介助方法を把握し誘導して、自立できるように支援している。	理念に沿った支援として、「できることは自分でやりました」を遂行している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りの姿勢で支援している。失禁の際には、利用者に嫌な印象を与えないように、優しく着替えを促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事献立に気を配り、牛乳やヨーグルトの提供、水分摂取の支援をしている。また、レクや運動、散歩等により便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが(月火木金)、職員と一対一でゆっくりと入浴できるようにしている。また、希望があればいつでも入浴できる。	利用者全員が週2回入浴できている。「清潔に気持ちよく過ごしたい」を短期目標の一つにしている人に対して、入浴時に皮膚の状態を含め全身チェックを行い、悪化しないように支援している。お湯は常に循環させているが、必要に応じて入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には就寝時間は決めておらず、ご本人の好きな時間に休んで頂いている。眠りにつくまで不安な方には、職員が側につき安心して頂けるよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬表を作成してあり、一目で入居者様の服薬状況を把握できる。服薬時には職員が確認している。薬が変更された時や新しい薬が処方された時は、常に主治医にその後の報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を見つけ、習慣となるよう支援している。趣味のある方には励まし、楽しみを続けられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出掛けている。また、コロナの感染状況に注意しながらご家族と相談し、少しずつご家族との面会や自宅へ帰ることができるよう支援している。	転倒によるケガや骨折に注意が必要なことから、散歩が無理な場合は「外気浴」と「運動」を適宜行うようにしている。室内にいる場合でも、南側の日当たりのよい場所で過ごすように促している。今春は、車窓ドライブで川沿いの河津桜の観賞に出かける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況により、ご家族と相談しながら支援の仕方を検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には声を掛け、勧めている。電話は依頼があればいつでも掛けられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い居間では、落ち着いて暮らせるように音の大きさや採光に気をくばり、食事作りの音やにおいが感じられる。居心地の良い空間作りを心掛けている。	日中を居間で過ごす人がほとんどで、皆で歌をうたったり体操をしたり、また簡単な作業を手伝う人もいる。年間を通して、居間や廊下に季節の飾りを施している。現在は、職員お手製のお雛様が飾られている。清掃・換気・消毒は徹底して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き、気の合った方同士が自由にくつろげる居場所があり、ゆっくりと過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、使い慣れた家具や身の回りの品を持ち込み、生活の持続性を大切にしている。	安眠に配慮して、夜間は各居室のドアを閉めているが、定期的に巡回して様子を確認している。必要な衣服や寝具類は、その都度家族に持参してもらい、衣替えは職員が行っている。清潔に過ごすために、リネン類の洗濯は定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に手作りの表札を掛けている。また、トイレ表示をし自立支援の配慮をしている。		